日本作業科学研究会ニュース ― 作ら，さくら ― 第９号

発行年月日　2011 年 1 月 31 日
発行者　日本作業科学研究会広報係
ウェブサイト http://www.jsso.jp/

新会長 港美雪から会員皆様へのご挨拶

港美雪，前吉備国際大学保健科学部

このたび，会長として運営にあたらせていただくことになりました港と申します.どうぞよろしくお願い致します.

本研究会では，これまで人々の生活を作業の視点から捉え，知識を深めること，そして幸せや健康につながる様々な実践の可能性に関心を向けてきました．研究会発足 5 年目を迎え，未来へ向けて･･･，皆様はどのような展望をお持ちでしょうか.私は，次の３つの展望を抱いています．まず，会員の皆様の斬新で自由な発想と，一方では実際の課題に根ざした現実的な疑問により，作業に関する知識を着実に蓄積すること，次に，国内において，また国際的に，作業の視点と共に作業科学を伝え広めること，最後に，作業の視点や作業科学を基盤とした提案や実践を通して，人々の幸せや健康に貢献できる影響力を発揮することです.

会員の皆様と共に，研究会における意義ある歩みをつくりあげていけますよう，微力ながら努力してまいりたいと思っています．研究会における様々な取り組みへの，皆様の“熱い参加”をぜひよろしくお願い致します.

第 14 回作業科学(OS)セミナー報告

作業を問う会/豊見城中央病院
村上典子

去る平成 22 年 12 月 11－12 日，沖縄の琉球大学法文学部大講義室にて，第 14 回作業科学セミナー「結 - 作業の花を咲かせましょう -」を無事に終えることができました．参加者

は予定数を超える 231 名で，2 日間で述べ 404 名の方が参加してくださいました．作業に魅せられて，もっと深く知りたいと望む人々が全国各地から集まり，最初から最後まで熱い二日間となりました．また懇親会でも 100 名近い方からの申し込みがあり，とても楽しく有意義な交流を持つことができました.

プログラムの構成にあたっては，実行委員メンバーの希望，理事会の意向，前回セミナーのアンケート結果などを照らしあわせながら検討を重ねました．盛り込みたい内容はたくさんありましたが，最終的に５つの講演と２群の演題発表としました．講師の先生方からは，作業への理解を深め，作業を考える助けとなるようなご講演をしていただきましたが，ユニークな話の展開やこぼれ話で笑いも沸き，真剣な中にもリラックスした雰囲気で講演が進められた印象がありました．終了時のアンケートでは，”理解が深まった，さらに勉強の必要を感じた”等，どの講演も大変好評で，ほとんどの方が満足であったと回答されていました.

また一般演題では，初の試みとして座長に

よる解説時間を設けました．作業科学に関心があり，実践で活かしたいと思いながらも難しさを感じている作業療法士も少なからずいるのではないかと思います．そこで，どういった部分が作業に焦点を当てた実践なのかということに触れてもらうことで，臨床で作業を捉えるヒントになれば，と考えました．発表内容の質の高さに加えて，この解説時間を設けたことについて，好意的なご意見をアンケートから知り得て一安心しました．一方で，質疑応答の時間やディスカッションの場が少なかったとのご指摘もあり，反省するとともに，参加される方の作業を掘り下げることへの意欲の高さを改めて実感しています．

沖縄県で作業科学セミナーを開催することが決まった一年前から，実行委員自身の知識の向上と県内での啓発活動を目的に定例勉強会を行い，理事に協力を仰いで講習会も開催しました．はるばる県外から参加される方へは，勉強だけでなくひとつでも多くの沖縄文化を感じてもらえるようにと，準備に励んでまいりました．会場アクセスやその他の対応などで，至らずにご迷惑をおかけした部分も多々あったと思いますが，温かい言葉をたくさんの方から頂戴することができ，ひとまずほっとしています．

開催への道のりは平坦ではなかったけれど，今後へ向けての大きな糧になると思える，とても貴重な作業経験となりました．このような機会を得られたことに，そして参加者の皆さんに，ご尽力くださった全ての関係者の方々に，心から感謝申し上げます．

次回は広島県で９月に開催されるとのことです．またセミナーでお会いできることを今から楽しみにしています．

招待講演者感想

Reflections on the JSSO Seminar in Okinawa （英語版の後に日本語版が続きます）

Dr. Clare Hocking
AUT University
New Zealand

Attending the 14th Occupational Science Seminar in Okinawa was an experience rich with occupations both familiar and exotic. Personal stories of learning about occupational science were told by lecturers inspired by this new vision, of practice based in occupation rather than rehabilitation techniques. The seminar drew together scholars with a wealth of knowledge of occupational science and its development around the world, people dedicated to the development of occupational science in Japan, and new comers – therapists, teachers and students who are excited to learn about this new knowledge to inform occupational therapy.

Occupational science is renewed in each place it develops, because the people in each place bring their unique cultural perspective to the science. Central to every culture are the metaphors used to covey meanings. I was interested in two metaphors referred to by Hiromi Yoshikawa: a cloth that wraps things together, and pieces of rice that stick together. I think that occupation is a cloth that wraps together all of the contributions occupational therapists can make to a society. Occupation can be used to help a child develop and learn (Nakama & Sakai) and to help a person

resume everyday life after an illness or accident (Bontje, Asaba, Tamura and Josephsson; Odawara; Oka). Occupation helps people maintain their health (Harada & Sakai; Imai & Saito) and plan for a healthy future, but it can also help us understand current and historical events (Takagi). Finally, looking at who has access to occupation and whose access is restricted helps occupational therapists realize that we have a role to pay in society, addressing issues of occupational deprivation, imbalance and alienation (Yohikawa). Occupation brings all of these contributions together, showing how a single profession can have such diverse interests. Equally, I wonder if 'meaning' is what helps all the different kinds of occupations that people engage in stick together into a coherent day or a meaningful life. So coming to Japan to listen to occupational scientists talk about their work has given me new ways to think about occupation.

Another new thought I have taken home is that resuming occupation after a health event is a moral as well as a medical and practical endeavor (Odawara). In New Zealand, I think we have concentrated on what is meaningful for people and what is needed to make people safe. The idea of a moral responsibility to resume one's daily occupations, to reconcile with dependence, and to work to regain vigor is a different perspective. It is a powerful idea, giving a new perspective on how hard people work in their rehabilitation and the courage required to continue working to recover.

I send my sincere thanks to the organizing committee for inviting me to speak at the seminar. I have returned home with fond memories of your warm welcome, and hope that my contribution to occupational science in Japan was helpful. I will treasure the new ideas, the new friendships and

the beautiful cloth to wrap things that were given to me at the seminar.

作業科学セミナー in 沖縄の思い出

沖縄で開かれた第１４回作業科学セミナーへの参加は，親しみがあり，かつ異国情緒あふれる作業とともにある豊かな経験でした．講演者が語る作業科学の学びの個人史は，リハビリテーションテクニックではなく，作業を基盤とする実践というこの新しい視点に喚起されたものでした．セミナーはまた，作業科学とその世界レベルでの発展に豊富な知識を持つ学識者，日本の作業科学の発展に力を注ぐ人々，そして作業療法に持ち込むためにこの新しい知識を学ぼうと刺激されたセラピストや学生といった初参加者を一つにするものでした．

作業科学は，それが発展する個々の場所で刷新されていきます．それは，そこにいる人が，この科学に対する独自の文化的視点を持ち込むからです．どの文化でも，意味を伝えるにためにはメタファー（隠喩）が中心的な役割を果たします．私は吉川ひろみ氏が使った二つのメタファーに大変興味を持ちました．

一つはものを包みこむ風呂敷であるというもの，もう一つは共にくっつきあう米であるというものです．これを聞いて，作業は作業療法士が行う全てのことをつつみこみ一つの社会を作り上げる事のできる風呂敷なのだなと思いました．作業は，子どもの発達や学習の援助（仲間，酒井），疾病や外傷のあとに生活を再開する人の援助（ボンジェ，浅羽，田村，ジョゼフソン；小田原；岡）として使う事ができます．作業は，人々が健康であることや（原田，酒井；今井，斎藤），健康な未来を計画する事を援助し，また，私たちが今や過去の出来事を理解する事も助けてくれます（高木）．そして作業剥奪，作業不均衡，作業阻害（吉川）と言われるような，誰が作業を手に入れることができ，誰がそれを妨げられているかという視点は，「私たちは社会に対して果たさなければならない役割がある」と作業療法士が認識することを援助します．作業は，一専門職がこれほど多彩な領域に興味を持ち得ることを示しつつ，そこで行われることのすべてを包み込むのです．同時に私は，「意味」というものが，人が従事するあらゆる作業が一貫性のある一日や意味のある人生となるよう，くっつける「意味」があるのではないかと考えています．このように，日本で作業科学者達の話を聞くことで，作業を考える上での新しい視点を得る事ができました．

私が家に持ち帰る事のできたもう一つの新しい考えは，健康に関する出来事の後に作業を再開する時には，医療的努力や実践努力だけでなくて，道徳的努力があるということです（小田原）．ニュージーランドで私は，人にとって意味のある事は何か，人が安全であるためには何が必要かという事に焦点をおいてきました．日常的作業を再開したり，依存という状態と調和したり，生きる力を取り戻そうとしたりするに上で，道徳的責任感があるという考えは，これとは異なるものです．この考えは，人がリハビリテーションにいかに懸命に励むかということや，回復のため努力し続ける事に必要な力などに関し，新しい視点をもたらすものです．

私は，セミナーでの講演にお招き下さった現地事務局の皆さんに心から感謝の言葉を述べたいと思います．みなさんの暖かい歓迎が心地よい記憶となって家に戻ってきています．そして，私の訪日が日本の作業科学の発展に役立つものであることを願っています．新しいアイデア，新しい友人，そしてセミナーでいただいた美しい布は，私の貴重な財産となるでしょう．（訳：近藤知子）

演題発表者の感想

北原リハビリテーション病院
岡　千晴

第 14 回作業科学セミナーで，当院で２年前から実施している，作業に焦点を当てた集団作業療法‘みちしるべ’について発表させていただきました．「自分が疑問に思ったことに応えられる研究を」と，私の臨床で抱いていた疑問を言葉にすることから一緒に向き合ってくださった恩師のもと「自分らしいと感じる作業についての研究」を大学院で行ない，その研究結果を反映させ立案したプログラムがみちしるべです．これまで，「クライエントが今後の人生を楽しみだと思え，自分らしく生きていけそうだと感じるきっかけになるように」という一心で行なってきたこの取り組みを，上手くまとめることが出来るのか，理解してもらえるのか，不安を抱えながら当日を迎えました．

発表後，臨床現場で働く多くの OT の方からご質問を頂き，有意義なディスカッションができました．また，同じような取り組みを行なっている方からプログラムの発展に繋がるアドバイスを頂き，脳卒中経験者である葉山靖明さんからも身にあまるお言葉を頂くなど，大変充実した時間を過ごす事が出来ました．内容をまとめていくプロセスを通して，いろいろな方々に支えられ，現在の OT としての自分，そしてみちしるべがあるのだと，自身が進んできた道を見つめ直す機会にもなりました．

最後になりましたが，作業という共通の視点をもつ人たちが集う年に一度のセミナーで発表させて頂く貴重な機会をいただいたことに感謝いたします．

参加者の感想

作業科学セミナー初上陸！

専門学校 YIC リハビリテーション大学校
渡辺慎介

セミナーオリジナル T シャツ，沖縄舞踊，セミナーの唄（♪作業の花を咲かせましょう），三線・エイサー等，実行委員の皆さまの分厚い，熱い歓迎，心あるおもてなしに感激・感動しました．そんな実行委員に後押しされるかのように，熱く，分かりやすい吉川さんの講演（初学者向け）から始まり，各講師・演者の「心」を感じる講演，演題発表．作業科学とはこんなにも人の心を動かすものなのかと感じた「初」作業科学でした．

セミナー前に吉川さんの著書『「作業」って何だろう　作業科学入門』を拝読しましたが，セミナー中に使われる用語の意味が理解できない箇所があり，講師・演者が発するメッセージの理解に繋がりませんでした．しかし，それは私の責任．同じ土俵に立てていないことに意気消沈したと同時に，私の心の中に沸々と湧き起こる意欲の高まりを感じています．まだ私は作業科学のお客様的感覚．仲間になるには努力が必要です．その努力は今現在の私自身の「作業」を問うことから始めることだと考えます．作業療法士として有り続けるために，作業療法士としての私を支えてくれるのが作業科学であると確信できたセミナーでした！

第 15 回作業科学セミナーのお知らせ

県立広島大学
吉川ひろみ

9 月 24（土），25（日）に県立広島大学（三原市）で開催予定です．テーマは「作業科学と社会」とする予定です．基調講演には，オーストラリアからゲイル・ホワイトフォード（Gail Whiteford）さん（マッコーリー大学教授）をお迎えし，「作業と参加とソーシャルインクルージョン」をお話いただきます．政治経済など状況的理由で作業ができない現象を研究している方です．特別講演では，岡本三夫さん（広島修道大学名誉教授）に「平和学の成り立ちと展望」をお話いただきます．誰もが知っている概念でありながら実現と継続が困難な平和について，どのように学問を進めるかについて学べると思います．佐藤剛講演の講師は，近藤敏さん（県立広島大学教授）です．古くから佐藤剛先生をよく知る講師ならではのお話を聞くことができると思います．また，参加者がそれぞれ興味をもつ作業科学のテーマについて，自由にディスカッションする時間も設けたいと考えています．秋の連休は，ぜひ三原市に来てください．

平成 22 年度　第 1 回理事会報告

日時：平成 22 年 12 月 10 日（金）18：30～
場所：安謝福祉複合施設
出席者：宮前，吉川，村井，近藤，西野，ボンジェ，港，（村上），坂上(記録)
【議題】
１．各担当からの報告と検討

（１）機関誌担当（西野，港，村井）
・第 4 巻発刊. 沖縄セミナー時に会員に配布.
→第 5 巻では研究論文を入れる. OS セミナー発表者に声かけることを確認.
（２）ホームページ（浅羽）
・Hits=23,591 件（＋5,621）
・来年，IT 管理者を浅羽明恵さん→承認
（３）広報・研究会ニュース（近藤，吉川）
・JOS　Vol.17 号　抄録の翻訳作業中.
・ＨＰ担当者と協力し，会員の活躍について紹介.
・広報委員（メーリングリストの検討）を検討中.
・研究会ニュース第 8 号を 6 月に発行.
（４）JOS（ボンジェ）
・広報で行った翻訳をもらい，JOS の担当者に転送した.
（５）第 14 回 OS セミナー（村上）
・明日（12 月 11 日）から開催.
・事前申し込みが，150 名，懇親会は，80 名申し込み.
（６）第 15 回 OS セミナー（吉川）
・来年，三原市の県立広島大学で，9 月に実施希望.
・吉川氏が，大会長．近藤先生が佐藤剛記念講演．Whiteford 氏を講師に迎える方向で検討中.
（７）ISOS について（浅羽）
・ISOS では, 2010 年 10 月に occupational patterns in time and space と題した初のオンラインディスカッションを行った．30 名を越えるメンバーが世界中から参加した.
・11 月に理事選挙が行われ，新しい理事が決まった．ROShan Galvaan(南アフリカ)，Pollie Price（アメリカ合衆国），Robin Stadnyk（カナダ），Alison Wicks（オーストラリア)，浅羽エリック（スウェーデン，日本）
２．第５回総会について（坂上）
・理事選挙は，立候補者が定員と同数だったため無投票当選.
【その他　報告事項】
１. 会員数の報告　平成 22 年度の会費を払った人は 105 名.
２. 現在の予算執行状況 : 残高 925, 043 円(平成 22 年 12 月 10 日現在).

以上

平成 21 年度　総会報告

日本作業科学研究会第５回総会議事録

１．日時：平成 22 年 12 月 11 日（土）11：40～12：20
２．場所：琉球大学法文学部　大講義室
３．議長団選出及び書記及び議事録署名人の任命
議長：田村浩介（琉球リハビリテーション学院），副議長：吉岡美和（沖縄リハビリテーション福祉学院），書記 : 岩見彩子（介護老人保健施設恵み野ケアサポート），谷川由佳（新札幌パウロ病院），議事録署名人 : 岡千晴（北原リハビリテーション病院）紫村允明（東松山病院）
４．定足数報告（介護老人保健施設恵み野ケアサポート　岩見彩子）
平成 22 年 12 月 11 日現在の会員数（22 年度会費納入者）118 名．総会参加 48 名，委任状提出 27 名，合計 75 名で総会が成立した.
５．議案と議事の経過
第 1 号議案　平成 21 年度（2009 年 10 月～2010 年 9 月）事業報告（坂上真理事務局長）
第 2 号議案　平成 21 年度（2009 年 10 月～2010 年 9 月）決算報告・監査意見書（坂上真理事務局長，西方佳子監事）
第 3 号議案　平成 22 年度（2010 年 10 月～2011 年 9 月）事業計画及び予算案の件（坂上真理事務局長）
→可決した.
第 4 号議案　役員選任の件

・選挙管理委員長（神戸学院大学　藤原瑞穂）より，会則第 25 条に基づき立候補者が定員と一致しため無投票当選となったことが報告された．立候補者は以下の通りであった（五十音順）．

理事（10 名）青山真美（西九州大学），小田原悦子（聖隷クリストファー大学），古山千佳子（県立広島大学），近藤知子（帝京科学大学），酒井ひとみ（琉球大学大学院），坂上真理（札幌医科大学），西方浩一（文京学院大学），西野歩（社会医学技術学院），港美雪（前所属　吉備国際大学），村井真由美（介護老人保健施設愛と結の街），

監事（2 名）

齋藤さわ子（茨城県立医療大学），西上忠臣（NPO 法人　ちゃんくす）

第 5 号議案　次期作業科学セミナー大会長承認の件

事務局長（札幌医科大学　坂上真理）より次期作業科学セミナー開催地を広島県三原市，大会長として県立広島大学吉川ひろみ氏が推薦された．→賛成し可決した．

以上

平成 22 年度　第 2 回理事会報告

日時：平成 22 年 12 月 12 日（日）12：45～13：20

場所：琉球大学

出席者：宮前，吉川，村井，近藤，西野，ボンジェ，港，西方（佳），青山，小田原，古山，酒井，西方（浩），坂上(記録)

【議題】

１．役員と担当について→以下の通り承認．

会長：港，副会長：村井，近藤，HP：西方

広報，ニュース：近藤，西野，機関紙：村井，青山，酒井，JOS：小田原，事務局：坂上，古山

２．担当の申し送りと 22 年度計画

（１）機関誌担当

・第 5 巻の発刊準備．

・セミナー発表者に研究論文を提出していただくよう声をかけることを確認．

・年に 1 回 OS セミナー時に発刊してきた．OS セミナーが来年 9 月になると，セミナー時に合わせて発刊するかを検討する必要ある．

→継続審議

・Hocking 氏への原稿依頼を確認．

（２）HP 担当

・IT 管理者→浅羽明恵氏になったことを確認

・今後メーリングリストの検討を行う必要があることを確認．

（３）広報・研究会ニュース担当

・研究会ニュースはセミナー終了後と 6 月に発行していた．12 月頃に研究会ニュース第 9 号を発行することを確認．

・JOS の抄録の翻訳を今後も定期的を行うことを確認．

・メーリングリストの広報部員の検討→継続審議

（４）学術研究会

①第 15 回 OS セミナー(三原)

・吉川ひろみ大会長にて実施することを確認．

→会計年度を 6 月 30 日に変更することを承認．

9 月の OS セミナー時に総会を開き，規約改正を議案にすることを確認．

②第 16 回 OS セミナー

・札幌で行う．第一候補を，7 月 3 連休みにすることを確認．

以上

平成 22 年度～平成 24 年度　役員

総会時の役員選挙に伴い以下のように役員が決定いたしました．会員皆様に御挨拶いたします．

会長

港　美雪：前吉備国際大学保健科学部

（挨拶はニュース p. 1 参照）

副会長

近藤知子：帝京科学大学医療科学部

理事となり 3 年目になります．今回は，副

会長の任を務めるとともに，ひき続き広報委員としての役割を取らせていただきます．皆様に近くありながらも，学問としての高みを目指す研究会であるよう尽力したいと考えます．よろしくお願いいたします．

村井真由美：介護老人保健施設愛と結の街

3 期目になります．今期も機関誌の充実を目標に取り組みたいと思います．研究論文を中心に，読み物としても学べ，楽しめる原稿を掲載したいです．そして九州，沖縄での作業科学が広がっていけるよう窓口になりたいと考えています．

理事

坂上真理（事務局長兼務）：札幌医科大学保健医療学部

3 期目の事務局長を担当させていただきます．会員登録を通じて，「作業科学」が着実に広がっていることと，会員の方の研究会や作業への熱い思いや期待を実感しています．今後ともよろしくお願いいたします．

青山真美：西九州大学リハビリテーション学部

私は，人類学を学んだ経緯とアイヌの方に出会った体験を通して，現在は自然環境問題と作業的公正に興味を持っています．作業科学の発展に微力ながらも貢献したいと思います．どうぞよろしくお願い致します．

小田原悦子：聖隷クリストファー大学

臨床で作業療法を楽しみ，「私が好きな作業療法とは何か？」という疑問に導かれて作業科学に出会い，人々とその興味を共有しようと今回理事になりました．多々至らぬところもありますが，よろしくお願いします．

古山千佳子：県立広島大学保健福祉学部

私は作業科学を学ぶことで，作業の捉え方ややり方が少しずつ変化したと感じています．作業することで元気になる人がたくさんいることにも気付かされました．少しでも多くの人に作業の魅力を知ってもらえるよう努力していきたいと思います．

酒井ひとみ：琉球大学人文社会科学研究科

昨年の沖縄で開催された第 14 回作業科学セミナーで実行委員をさせていただいたご縁でだと思いますが，気が付いたら理事になっておりました．作業科学には，札幌にクラークさんとゼムケさんが第１回のワークショップをしてくださった時から強い魅力を感じながらも，なかなか近づけないでいました．敷居が高い感じがするのは私の偏見なのでしょうね？その敷居を跨ぎ，OS の世界へ踏み込もうと思います．よろしくお願いします．

西方浩一：文京学院大学保健医療技術学部

今期より，理事になりました．西方浩一です．主な活動はホームページ担当として，皆様にとって有効かつ活用できる情報の発信ができるよう努力したいと思います．どうぞよろしくお願いいたします．

西野　歩：専門学校　社会医学技術学院

3 期目の理事を務めます．公私ともに作業が自分を支えてくれています．皆さんも同じと思います．一人でも多くの方が，作業の大切さに気づき，より健康になってほしいと心から思っております．私たちの活動が社会を変えると信じ，大河も水の一滴から！互いに頑張りましょう．

監事

齋藤さわ子：茨城県立医療大学

作業に関する系統的な知見が得られることが，人の健康を促進すると信じています．研究会の監事を担うことで，作業と人と健康の関係を明らかにしていくことに少しでも貢献できればと思っています．

西上忠臣：NPO 法人ちゃんくす

作業に焦点をあてて地域の人たちと共に活動をはじめた NPO 法人ちゃんくす．立ち上げて 1 年が経ちました．今年度の作業科学セミナーは三原で行われます．みなさんに紹介ができるように，日々邁進したいと思います．

カナダ・アメリカ合同作業科学学会
発表者の感想

聖隷クリストファー大学
小田原悦子

カナダのオンタリオ州ロンドン（イギリスではありません）で，第 1 回カナダ・アメリカ作業科学研究会の合同カンファレンスが 2010 年 10 月 14－16 日に（14 日にプレ講演会，15，16 日に学会）開催されました．「作業の境界と橋渡し」のテーマで，基調講演と occupational justice の講演が行われ，参加者 300 人くらい，発表 83 演題という　こじんまりとした集まりでしたが，長年に渡って，作業に興味を持ち，知識・理論の開発に従事して来た研究者たちが意見を交換するのですから，熱いエネルギー満載で，交歓は尽きるところなしという雰囲気でした．作業科学の学会らしく，バランスをとるための作業ブレイクがスケジュールに組まれ，レセプションも作業科学者たちがお互いの業績を喜ぶ祝福モードのもので，なごやかで，希望に満ちたものでした．

恥ずかしながら，私の発表者としての経験を述べます．自分のパネルの前に立ち，やってくる参加者に話しかけると，中には熱心に耳を傾ける人もおり，会話が始まる．一番言いたいところで深く共感したり，質問を受けるうちに，熱心に話している自分に気づき，ワイングラスを片手に，「ああ，作業の話ができてよかった」と思う，これが発表の醍醐味です．この交流で，自分がこのコミュニティーの一員だと感じて，嬉しくなる．スキップしたくなるのです．

ところで，カンファレンスは，これまで，カナダとアメリカで個別に開催され，今回は念願かなって記念すべき合同学会となりました．それを喜ぶようにこんなハプニングがありました．このカンファレンスが，人間が生きるため，その健康のため

に必要な作業について議論する国際学会として，カナダのマスコミで大きく報道されたのです．ちょうどこの学会中に，閉じ込められていたチリの炭鉱夫たちが救出されたのですが，新聞記者から，炭鉱夫たちの生存についてコメントを求められた作業科学研究会が，作業の力と彼らの生存を誇りとする内容のコメントを出し，新聞とラジオで取り上げられたのです．人々の健康と幸せのために作業を研究する作業科学者にふさわしいお祝いではありませんか！！

参加者感想

北海道大学保健科学院博士後期課程
介護老人保健施設恵み野ケアサポート
高島理沙

以前より作業科学をきちんと学んでみたいという気持ちがあり，職場の先輩に紹介していただいて初めて作業科学の勉強会に参加したのが今年の 6 月のことでした．作業についてじっくりと見つめる時間は私にとって非常に面白く，どんどんのめりこんでいきました．そして，カナダとアメリカ合同の学会があると聞いた時には，国際学会に参加してみたいという気持ちもあってすぐに参加を決めました．

海外旅行に不慣れなため学会会場に辿り着くまでは大冒険でしたが，学会は想像していた以上に面白く，わくわくの連続でした．学会の冊子には聞いてみたいと思うタイトルがたくさん並び，いざ発表が始まって質疑応答の時間になると，ディスッションがディスカッションを呼ぶといった様子で白熱した議論が展開されていました．ただ，自分にはその場に入っていくだけの知識と英語力が不足し

ているということが非常に残念でした．近い将来には是非，自分も発表してみたいと思いました．

介護老人保健施設恵み野ケアサポート
岩見彩子

私は先日，カナダで開催された「CSOS & SSO Joint Occupational Science Conference」に参加させて頂きました．英語力が殆ど「無」に等しく，さらに日本を出たことは韓国旅行のとき以外は全くない私にとっては，人生最大のチャレンジだったと思います．なぜそんな人生最大のチャレンジをしたのかと言うと，ただ単に海外での学会の雰囲気を経験してみたかった為だけではなく，作業科学に対する研究者の「熱さ」を感じ取りたかったことが大きな理由です．

参加した計 9 つのセッションでは英語でのディスカッションの内容が理解できずクタクタになりましたが…「熱さ」は私の想像をはるかに超えており，ディスカッションが次から次へと発展していく雰囲気に圧倒され，とても刺激的でパワーが沸々と湧いてくるような数日間を過ごすことができました．もっと作業科学について知り，英語力も磨き，いつかまたチャレンジしたいと思っています！

札幌医科大学　作業科学勉強会メンバー
新札幌パウロ病院
作業療法士　谷川　由佳

作業科学に出会い勉強会に参加していく中で，カナダやアメリカで開かれる学会があるということを知った自身の英語能力はさておき，ぜひ参加してみたいと思い，今回参加することができました．

学会自体は 3 日間であり，毎年行われる作業科学セミナーよりも 1 日長いものでしたが，今まで私が参加してきた日本の学会との違いがいくつかあり，とても驚いたのと同時に，新鮮な体験でした．例えば，朝から夜まで講演があったり，食事をしながら講演やセッションをしたり，発表の後白熱した議論をしたり，などです．また，レセプションで世界の色々な地域の作業科学に携わる方々とコミュニケーションを取れたことは私にとって非常に有意義な体験になりました．

学会の終わりなって体調を崩すという悲惨な体験や専門用語オンパレードに戸惑い，理解が難しいことも多かったですが，それも含めて今回参加できたことは自分にとって大きな糧になると思います．作業科学をもっともっと勉強してみたい，今回学んだことを活かして発表等につなげていきたいと改めて思いました．まだまだ不勉強なところはありますが，今後もより一層勉強し，作業科学の道を進んでいきたいと思います．

“作業科学研究”への投稿をお待ちしています

日本作業科学研究会は作業科学の知識を蓄積していくために機関誌「作業科学研究」を年１回発刊しています．そのために研究論文を多く掲載したいと考えています．これまで作業科学セミナーで研究発表された方，是非投稿をお願いいたします．発表されていない方も温めている研究を投稿してください．皆様の研究論文が誰かの役に立ち，作業科学の発展につながります．投稿規定に関しては既刊の「作業科学研究」の末頁か，日本作業科学研究会のホームページを参照して下さい．

「作業科学研究」は研究論文を中心にしたいと考えていますが，日本語で書かれた作業科学に関する読み物としても充実させたいと思います．作業科学にまつわること，作業科学の研修会に参加した経験，書評なども募集しています．寄稿したい方は，村井真由美（mmurai@mx2.aitoyui.com）までご一報ください．

皆様の投稿をお待ちしております．

（機関誌担当：介護老人保健施設愛と結の街
村井真由美）

SSO:USA （アメリカ作業科学研究会）第10回学会のお知らせ

今年 2011 年の 10 月，アメリカ作業科学研究会の第 10 回学会が，ユタ州のパークシティで開かれます．今回はアメリカ作業研究会が発足して 10 年目の学会になります．基調講演であるルース・ゼムケ講演「Occupations by Design」の著者でもある Doris Pierce 教授．皆さんも，アメリカ作業科学研究会学会に参加し，世界の研究者たちとの交流に挑戦してみませんか？発表を計画される方は，2011 年 3 月 15 日が締め切りです．

学会テーマ：山頂での省察：学術的コミュニティとしての 10 年から学ぶこと

日時：2011 年 10 月 20 日～22 日

場所：ユタ州パーク市ディアバレイリゾート

詳しくは，以下を参照ください．

http://www.sso-usa.org/news.htm#09conf

Journal of Occupational Science（JOS）抄録翻訳のお知らせ

会員の方は研究会ホームページより，JOS 掲載の英論文抄録の日本語訳の閲覧ができます．

すでに閲覧できるものは，10 巻から 12 巻，16 巻 1 号－3 号，17 巻 1・2 号の抄訳が完了しました．3 号の抄訳も近日掲載される予定です．

平成 22 年度の会費を納めた会員の皆様は，日本作業科学研究会より，新パスワードのお知らせメールを受け取っていることと存じます．

ぜひ会員専用ページをご活用ください．

http://www.jsso.jp/

なお，JOS の定期購読は以下の HP より申し込みができます．

http://www.jos.edu.au/

編集者からのお知らせ

お知らせなど，このニュースに掲載したい記事がある会員は，西野歩 nishino@sigg.ac.jp まで，お送りください．ニュース発行は年 2 回の予定です．　　近藤知子・西野歩

事務局からお願い

本研究会は平成 22 年 10 月 1 日から平成 23 年 9 月 30 日までが，平成 22 年度になります。会員の方は，会費の納入をよろしくお願いします。新年度への移行に伴いホームページの会員専用サイトパスワードは，12 月 1 日に変更いたしました。平成 22 年度パスワードは会費を納入された会員の皆様に順次発行されますので，会費の納入はお早めにお済ませください。

http://www.jsso.jp/